

教育広報

かけはし

第4号 平成4年5月20日発行

発行 千代田区教育委員会



ガイドさんに質問する生徒たち(法隆寺、九段中)

主
な
記
事

- ☆生涯学習の基盤づくりを目指して
—平成4年度の学校教育—
- ☆区議会臨時会
公適配関係費を予算化
- ☆中学校修学旅行「古都を訪ねて」

中学校生活の中で最も思い出となる修学旅行は、2泊3日の日程で、古都「京都・奈良」を訪ねました。

コースの設定から、しおりの作成、現地での行動まで、自分たちの力で計画的に進めました。

味わい深い旅になったようです。

* 教育広報「かけはし」は資源保護のために再生紙を使用しています。

生涯学習の基盤づくりを目指して

平成四年度 教育目標

(抜粋)

来るべき二十一世紀に向けて、千代田区の教育の歴史と伝統を継承・発展させ、心身ともに健康で、千代田区に誇りと愛着を持つ人間性豊かな区民の育成を目指し、次の視点を基本として本区の教育を推進します。

一、高齢化・情報化・国際化など、社会の変化に伴う区民の学習需要に対応し、家庭教育・学校教育・社会教育・社会体育を充実し、相互に密接な連携を図って、区民の生涯にわたる学習意欲に応えます。

二、学校教育においては、個人の尊厳を重んじ、自発的・自律的精神を養い、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる区民の育成を目指して、生涯学習の基礎を培います。

三、社会教育・社会体育においては、区民の生涯を通じて自己実現と生きがい・意欲の醸成を図って、あらゆる機会や場を活用し、区民の多様な学習意欲を充足することのできる諸施策の推進を図ります。

学校教育プロフィール

新しい仲間を迎えて

四月六日に小学校・中学校の入学式、十日には幼稚園の入園式が行われました。

本年度の区内幼稚園の三歳入園児は、一八一名です。また、小学校の入学児童は五六一名、中学校の入学生徒は七五三名です。

区内幼稚園・小学校・中学校の学級数・在籍者数は、次の通りです。

平成4年度 学級数・在籍者数

	学級数	在籍者数	在籍者数 前年比
幼稚園 〔14園〕	48	565	△ 32
小学校 〔14校〕	137 (5)	3,672 (27)	△ 113
中学校 〔5校〕	73 (1)	2,672 (4)	△ 192

()内は特殊学級で、外数。△は減 平成4年5月1日現在

新教育委員長就任

三月二十日付で、教育委員長に横山安宏氏が就任しました。教育委員会の新しい構成は、次の通りです。(敬称略)

教育委員長 横山 安宏
委員長職務代理者 栗岩 英雄
教育委員 藤井 康男
教育委員 小林 泰而
教育委員(教育長) 井澤 一弘

社会の急速な変化に伴い、家庭教育の重要性が改めて叫ばれるとともに、生涯学習の視点に立って、学校教育・社会教育・社会体育の見直しが求められています。

教育委員

会は、月二回会議を開き、これらの課題とともに、公共施設適正配置など、新しい社会に対応すべく審議を進めています。



内容一新の教科書

小学校においては、本年度、新しい学習指導要領による教育が全面的に実施されます。

思考力、判断力、実践力、創造性等の育成を重視し、学習内容も大幅に改められました。従って、教科書も昨年度まで使っていたものではなく、全学年新しくなりました。



体験重視の生活科

今回の改訂で特に目新しいことは、小学校一、二年生では、社会科・理科に代わって、新教科「生活科」が誕生したこと。

生活科の学習は、身近な自然や、地域社会等を対象として、児童が、自分の体を動かし、進んで物事に取

教育予算

三月の第一回区議会定例会で議決された平成四年度の千代田区一般会計予算のうち、教育予算は、総額 六六億三、七四一万円、区歳出合計の約一七％です。

この教育予算のうち、子どもたちの学習活動に関係のある主なものを紹介します。

☆ コンピューター活用による教育の推進 一億一、六〇二万円
小・中学校において、教科の学習や情報教育等、多方面に活用します。



クラブ活動でもコンピューター

☆ 自然体験交流教室 一、二九一万円
群馬県嬬恋村において、小学校の学校間交流、自然体験、農業体験を実施します。

☆ 小・中学校校舎等改修 八億八、四六四万円
全校一斉の体育、スポーツテスト、少年野球等に使用している施設の改修整備です。

☆ 花小金井学園施設整備 七、四八七万円
平成五年春オープンに向けて、多目的な機能をもった施設を建設しています。

☆ 軽井沢少年自然の家第二期整備 四億六、三八四万円
完成の暁には、公募による愛称をつける予定です。

☆ 「目で見える千代田の歴史」(仮称)作成 一、一九〇万円
区内の図書館をオンラインで結び、図書利用者の便を図ります。

☆ 新学習指導要領による教材整備 一、八〇三万円
平成五年度から完全実施される

区議会臨時会 公適配関係費を予算化

四月二十一日に開かれた区議会臨時会で、公共施設適正配置構想推進に当面必要な経費として、総額十二億一千四百二十五万四千円の補正予算が決められました。

このうち、教育関係予算は、「新たな学校」づくりについて話しあう協議会経費、現校舎の改修工事費、さらに新しい校舎づくりの計画立案に必要な経費などが計上されています。ここでは、教育関係費のあらましについて紹介します。

今後とも、みなさんの意見をいただきながら、公適配構想を進めてまいります。
(新設される七つの複合施設の構想については、五月二十日発行の広報「千代田」特集号を参照下さい)

教育関係予算のあらまし

「新たな学校」設立協議会

「新たな学校」の発足に向けて、学校ごとに設置されるPTAをはじめ地域・学校関係者による協議・検討のための組織です。

今後、それぞれの状況にあわせ、学校ごとに進めていきます。

幼児・児童の交流会

「新たな学校」にスムーズに移行していくために、平成四年度中に幼稚園や小学校間で交流会を進めます。

小学校においては、必要に応じ合同の授業やスポーツ、校外学習、クラブ活動、発表会などが行われます。幼稚園についても、保護者の意見を反映させ、保護者とともに合同の保育、園外保育、親子体操などが予定されています。

校舎の改修・整備

平成五年四月から「新たな学校」として使用される校舎について、既存の校舎に必要な改修を行っています。

具体的には、学級増にともなう普通教室の増設や、国際化教育に対応する施設の改修などとなっています。

「新たな学校」の建設

新しく建設される学校は、情報化・国際化のすすむ中で、二十一世紀の教育に対応する先進的な施設・設備をそなえ、教育条件の向上をはかります。同時に、地域社会に開かれたコミュニティスクールとして、トータルな生涯学習の場としても活用していきます。

今回は、(仮称)第七幼稚園・小学校〔外神田三丁目複合施設〕の計画づくりや設計、(仮称)第六幼稚園・小学校・(仮称)第三中学校〔神田司町二丁目複合施設〕および(仮称)第一中学校〔平河町二丁目複合施設〕の計画づくり



を行ないます。

なお、これらの学校には、いずれも「まちかど図書館」が併設されるほか、(仮称)第六幼稚園・小学校・(仮称)第三中学校には「教育研究所」が、(仮称)第一中学校には、「地域体育館」が、それぞれ併設される予定です。

総合文化施設の建設

〔神田小川町三丁目複合施設〕

千代田区に住み、学び、集うすべての人々の生活の豊かさを実現するための文化発信基地となる歴史民俗資料館や図書館(本館)、生涯学習センター、芸術文化ホール機能を兼ね備えた総合文化施設の計画・設計を行います。

気になる体重計

先日、保健の先生から、「毎日、体重計にのる子がいる。」という話を聞きました。

その子は、私から見れば肥満児どころか、むしろやせている方だと思ふのですが、どうやら自分では太っていると思ひ込んでいるようです。

大人だけでなく、現代の子どもにもスリム志向があり、太っている者はやせたい、やせている者でもさらにやせたいという気持ちがあふれています。

しかし、やせるために食事を抜いてしまうのはどうでしょうか。体のためには、きまつた時刻にしっかりと食

べ、よく運動することが一番だと思います。

外見上の体の成長に合わせて、体内の諸器官も成長する大切な時期です。規則正しい生活をしながら、朝昼晩、きちんと食事をし、バランスのとれた体づくりに努めましょう。

“水と友だちになろう”

子ども水泳教室のご案内

- とき 平成4年7月8日(木)、9日(木)、10日(金)、14日(火)、15日(水)の5日間
午後3時～5時
- ところ 千代田区立総合体育館 プール
- 参加資格 区内の小学生。初心者(全く泳げないか、10m程度しか泳げない人)で、毎回参加できる人。
- 定員・費用 定員100名(申込み多数の場合は抽選)。無料。
- 申込み方法 6月25日(木)までに、往復はがきで「子ども水泳教室希望」と明記。
住所・氏名・性別・年齢・学校名・学年・電話番号を記入する。
- 申込み先 スポーツ振興課事業係(内神田2-1-8 総合体育館内) Tel (3256)8444

千代田の歴史

四番町歴史民俗資料館で展示会

文化財といわれるものの中で、美術工芸品などは大切に保存されますが、日ごろ使っている生活用品などの民俗資料は、とくに忘れ、捨て去られていくことが多いようです。

そこで、千代田区立四番町歴史民俗資料館では、その時代時代の生活の移りかわりを知る上で欠かすことのできない民俗資料の収集に力を入れてきました。

これまでも、江戸から明治、大正、昭和にかけて、くらしの中で使われてきた「灯り」「飲食器」「暖房具」「大工道具」「はかり」など、テーマ

別に展示を行ってきました。

さて、今回六月九日から十二月にかけて、これまでの収蔵資料を中心とした生活用品を幅広く時代別にとりあげ、街なみの変遷や、区内における日常生活の移りかわりを追ってみたいと思います。

所在地

千代田区四番町一

電話

(3238)1139

開館時間

火・金曜
午前九時～午後七時
その他の日
午前九時～午後五時

休館日

月曜日
(第二日曜日の翌日の月曜日を除く)
第二日曜日・祝日

入場無料

地下鉄市ヶ谷駅

靖国通り

東公園

日本テレビ通り

日本テレビ地下鉄麹町駅

四番町歴史民俗資料館

学校栄養士さんの ワンポイントアドバイス

外見上の体の成長に合わせて、体内の諸器官も成長する大切な時期です。規則正しい生活をしながら、朝昼晩、きちんと食事をし、バランスのとれた体づくりに努めましょう。

中学校修学旅行 「古都を訪ねて」

東京

京都

4月20日(月)
12:25 8:28

13:40 17:03
4月22日(水)

今年も、四月二十日から二十二日にかけて、中学校五校が一斉に修学旅行に出かけました。行き先は、京都・奈良。わが国の歴史と文化のあとをたどりながら、集団行動を通して自主的な態度を身につけ、友情を深めあおうという趣旨で行われました。東京・京都間の往復は、五校とも同じ新幹線を利用。ただし、見学コースは、各校がそれぞれに選んでいます。生徒がグループ単位で、自分達の計画したコースに従って行動することもありました。

〔主な見学場所〕

三十三間堂
清水閣
銀閣寺
金閣寺
竜安寺
嵯峨野
天竜寺
常寂光寺
落柿舎
二尊院
祇王寺
念仏寺



十三間堂の前で、数珠を売っていたおばさんと話がはずみました。(麴町)



京都では、器づくりや茶山人の絵づけにチャレンジしました。(練成)

葉桜や木々にしっとり古都の雨 伊東政泰
春景色桜のあとに若葉かな 紺谷誠一



「頭が良くなりますように」との思いをこめて
清水寺・音羽の滝の水を飲みました。(九段)

薬師寺でみちをうらなう 岩上と和
春風に相輪ゆれる法隆寺 山本貴之
法隆寺五重の塔に花びら 寺嶋彩
み仏も若葉も光る東大寺 小林章子
穏やかに大仏おわす奈良の春 中野智子

(俳句協力・麴町中学校)



奈良公園でのみとコマ、お父さん、お母さんと同じ経験しましたか。(練成)



奈良のまちかどで、外国の新しい友だちにめぐり会いました。(今川)

今日も一日しっかり見学。
古都の味も、おなかいっぱい
味わいました。(一橋)



4月21日(火)

春日大社
三月堂
二月堂
東大寺
法隆寺
薬師寺
唐招提寺

奈良

随想

きょういく

言葉の先生は母親だけではない。普段子供に接している父親も祖父母もやはり先生。

近年、心ある大人たちの憂いに子供の言語生活にかかわることが少なくない。その一つに語いの不足が挙げられる。挨拶語、敬語に限らず、日常頻繁に使われる動詞、形容詞、副詞の類いにおいても、その貧困は嘆かわしい。

一例を挙げると、食べ物の調理は何でも「煮る」であり、「ご飯を炊く」までも「ご飯を煮る」になってしまう。「ふかす・ゆでる・あげる・いためる・やく・おろす」等々の使い分けなどには到底及びもつかぬ。子供の語量を問題にする時、言語教育の他に、家庭における言葉の生活のあり方についても考えないわけにはいかない。生活の中で言葉をどのように使っているのか、どんなふうに家族と言葉を交わし合い、どのように導かれているのかなど、子供を取り巻く環境が言葉の教育に影響するからである。

例えば、今、「雨が降り続けている」様子表現させたとする。たいは、「雨が朝から降っている」

「雨がたくさん降っている」とごく当たり前の言い方で済ましてしまう。

ところが、時たま、「ぬか雨がしとしとと降り続く」とか「静かに絶え間なく降る春雨」などと、雨の種類やその形容を言い分けた表現に出会い、驚かされることがある。そんな

お母さんは言葉の先生

教育委員

栗 岩 英 雄



な時には、平生から言葉に心配りする大人の影響を思わずにいられない。

霧雨・時雨・夕立・霖雨・氷雨・みぞれ……。日本語にはわが国の風土的な特色もあって、四季・気象などの変化を表現する言葉が豊富である。この豊かな言葉を自由自在に使

いこなせるということは、実に事象を見る眼が鋭く、心が敏感に働くということでもある。つまり、言葉の豊かさは観察力や思考力、心情の豊かさや表裏一体の関係にあるのだ。

洗濯物をたたむ母親の傍らへ子供が寄って来た時、「邪魔よ、外へ遊びに行きなさい。」などと追い払ってしまったのでは、言葉の先生になるチャンスを放棄したようなもの。「ちようどよい所に来たわね。一緒にたんでごらん。ほら、このえりを……。すそは……。そでは二つ折りにして」などと、親子が心を触れ合わせながら、衣服の部分の名称を教えることができるのである。また、掃除の手伝いをさせながら、「しきい・かもい・なげし……」等々、家屋の構造名にも親しませたりできる。食通の友が、調理の言葉の徐々に失われていく現状を「日本の味覚文化の滅亡」と大袈裟に嘆く姿を見ても、笑ってばかりはいられない。言葉は文化なのである。

くりいわ ひでお
平成3年から教育委員
前区立小学校長・園長

随想

きょういく

編集後記

「かけはし」の創刊号が発行されてから、早一年になろうとしています。その間に、千代田区公共施設適正配置構想の発表、学校週五日制の実施期日の決定、小学校の新教育課程の完全実施等、学校・家庭・地域及び行政機関を取り巻く状況が大きく変化してきました。

従って、この広報紙「かけはし」の重要性がいつそう増してきたように思い、責任を感じています。

二年目を迎えて、今年度は、今まで以上に、幼稚園、小・中学校の生き生きとした姿、地域やPTAの活動の様子なども盛り込んで、充実した紙面にしていきたいと考えています。

皆様のご意見・ご感想・ご要望を、ぜひお寄せください。お待ちしております。

教育広報「かけはし」第四号
平成4年5月20日発行
編集発行/千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)2664-0151 内3114